

子どものロンドン子どもの健康

子どもの日は、元々は武士の男児の健康と立身出世を祝う端午の節句という風習だったものが、戦後になって祝日として制定されたものです。

昔は5月5日というのは、子どもの健康にとって危険な時期の始まりでした。日本の多くの平野部は元々海底だった低地が多く、梅雨の季節にはしばしば水害が発生して清潔な水を入手することが難しくなり、下痢が流行りやすくなりました。医薬品を使用した点滴が確立されていない時代において、下痢は脱水症を起こして血圧が下がる致命的な病気でした。また、米の収穫前ということもあり、食糧が底をつくことがありました。冬に亡くなる人が多い現在と比べて、昔は夏に集中していたのです。



文/国保多古中央病院 内科 宇都宮隆法
様々な病気に対して免疫を持っていない後者のほうが感染症に対して弱く、戦場で病気がかり倒れていききました。集団生活することで、体の免疫機能が感染症について学習しているのです。
感染症による発熱は、免疫機能が外敵と戦っている姿の表れです。とかく体温計の数字に一喜一憂しがちですが、小児の疾患では呼吸の様子、食欲・哺乳の様子、意識状態、痛み程度が重視されます。
多古町の伝統行事には結婚や出産を連想させるものもあり、その当時、子どもや妊産婦が大勢亡くなった時期があったことをうかがわせます。50人程度の集落で産婦や成人直前の若者が立て続けに亡くなれば、集落は消滅の危機に陥るため、その際の危機感から行事がはじめられたと思われまます。多古こども園の開園は、子育てしやすい町として、少子高齢化をのりきるための助けになるでしょう。

現代になって衣食住が改善されても、肺炎や胃腸炎、インフルエンザという感染症は消えることはありません。保育園や幼稚園、学校という大人数が集まって生活・学習する時間帯が長い子どもの環境では、感染症の拡大を防ぐのが難しいためです。だからといって感染症を恐れて集団生活に加わらないというのは、正しいとは言えません。第一次世界大戦の際に研究が進んだことですが、都会の人こみで生活する体つきの子は、若者と、農村から出てきた力仕事でたくましい体格の若者とは、

子どもは地域の宝だね!

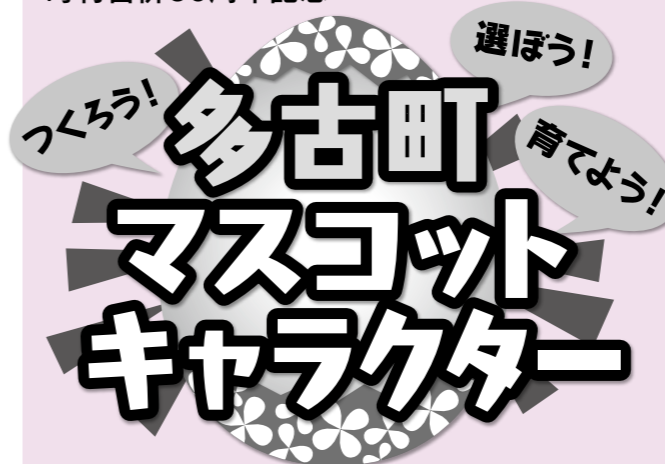


小中学校へ本が寄贈されました ~本は心の栄養~

小学6年生と中学校のジュニアリーダーたちが運営する「子どもフェスタ」。フリーマーケットや金魚すくいなど各コーナーで得られた収益金で、みんなにたくさん本を読んでもらいたいと、多古町子ども会育成連絡協議会・多古町ジュニアリーダーズクラブより今年も各学校に本が贈られました。



町村合併60周年記念



あなたのアイデアが多古町の公式キャラクターに

町の夢と魅力をアピールするキャラクター(夢キャラ)のデザイン原画を、現在募集中です。プロ・アマ、年齢問わずどなたでも応募できますので、ドシンドシご応募ください。

応募期限

平成26年
5月7日(水)
正午受付分まで

応募方法

郵送
応募箱 メール
※個人での応募となります。グループでの応募はできません。

賞
および副賞

最優秀賞1点
賞金**30万円**
多古米60kg
優秀賞2点
賞金**5万円**
多古米10kg

応募規定、発表・表彰など詳しくはお問い合わせください。
お問合せ●企画財政課内「夢キャラ募集係」
☎76-5409

多古町内の昔の写真を募集します

町では町村合併60周年を記念して、町勢要覧を現在作成しています。多古町の歴史、生活、人々の営みの記録を今の世代に伝え、後世に引き継ぐため、要覧に掲載する昔の写真を探しています。みなさんのご協力をお願いいたします。

募集写真

明治・大正・昭和初期～40年代ごろの年中行事(特に子どもたちが写っているもの)、お祭りや農作業、学校生活など当時の生活の様子が見えるような写真を募集します。

上記のほか、町並みや建造物、自然風景なども引き続き探しています。

提供方法

プリント写真(インクジェットプリンタ不可)もしくはデジタルデータ(JPG)を総務課広報係へお持ちください。

注意事項

- 必ず本人またはご家族が撮影した写真をお持ちください。なお、提供写真は提供者が著作権を完全に保有しているものに限り、第三者が発行する印刷物、管理するホームページなどから転用された写真は受付できませんので、ご了承ください。
- 写真に人物が含まれる場合、その人物の肖像権に関して、町は一切責任を負いかねますので、提供者本人の責任において、写真を提供してください。
- 提供いただいた写真の著作権は、多古町に帰属し、提供者の承諾・許可なく、「広報たこ」をはじめ、町ホームページなど、町の広報活動全般に使用される場合があります。
- 写真は一定期間の借用後にお返しします。

お問合せ●総務課広報係☎76-2611



私の一冊

『オズの魔法使い』

なにか面白い本はないかなと探している時に「この本読んでみたら？」と母に勧められたのが『オズの魔法使い』でした。ファンタジーや冒険ものが好きな私は、すぐ夢中になって読みました。

カンザスの大草原に住むドロシーが、竜巻に襲われ愛犬のトトと家ごと魔法のオズの国へ飛ばされてしま



本植人:前橋真白さん(井戸山)

います。おじさんとおばさんのところへ帰りたいドロシーは、そこで出会った北の悪い魔女に大魔法使いのオズが助けてくれるだろうと教えてもらいます。オズに会うため旅をしていると脳みそが欲しいかかし、心臓が欲しいブリキのきこり、勇気が欲しい臆病なライオンに出会い一緒に旅をしま

すが、いろいろな問題にぶつかります。それを乗り越えていくにはどうするかと思ったり、話がこうなればいいのかと空想したり、悪い魔女にまつて城へ連れて行かれてしまった時はどうなるんだろうとドキドキしました。
この本はシリーズで全15巻ありますが、ふりがながふつてあってとても読みやすく、イラストもかわいい本です。中でも6巻の『オズのエメラルドの都』が私のお気に入りですが、どの巻もとても楽しいので、もう一度読み直してみようと思っています。
これからもワクワクするような面白い本をたくさん読んでいきたいです。

35年目



『オズの魔法使い』
作:ライマン・フランク・ボーム
訳:宮坂宏美
発行:復刊ドットコム

【あらすじ】
竜巻で飛ばされ、見知らぬ不思議な世界にやってきたドロシーは、ふるさとのカンザスに帰るため、魔法使いのオズに会いに行きます。途中で出会った仲間たちとともに、さまざまな困難をのりこえる冒険ファンタジー。

今回紹介した本は、プラザ図書室に置いてあります。リクエストにもお応えしますので、お気軽にご利用ください。
■コミュニティプラザ図書室
☎79-3406
開館時間:午前8時30分~午後5時
【休館日】毎週月曜日・祝日